



TITLE:

# サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

竹中, 修; 松林, 清明; 後藤, 俊二; 鈴木, 樹理; 松林, 伸子

---

CITATION:

竹中, 修 ...[et al]. サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1984, 14: 28-30

ISSUE DATE:

1984-09-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163321>

RIGHT:

赤座久明, 岩川 正, 宮川猛史, 藤田 剛,  
大井 徹(1984):「屋久島原生自然環境保  
全地域調査報告書」

#### 学会発表

- 1) Azuma, S.: Ecological biogeography of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) Sino-Japanese Joint Mammalogical Symposium, Hefei, Anhui, China. (1983).
- 2) 東 滋, 大竹 勝, 山極寿一, 足沢貞成, 赤座久明, 宮川 猛, 藤田 剛, 岩川 正, 大井 徹: 花山原生自然環境保全地域に生息するヤクザルの生態について。第28回プリマテス研究会。(1984)。

#### サル類保健飼育管理施設

竹中 修(兼)・松林清明・後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子<sup>1)</sup>

昭和55年度から開始した繁殖コロニーにおける飼育, および飼育技術員の担当個所の固定化と, 人工授精, 人口哺育, 室内計画繁殖等の飼育関連技術のレベルアップ, さらに細菌, 血液, 寄生虫, 病理等の各種検査を基礎とした保健・診療関係の整備について今年度もそれなりの進展を見たと言える。例えば, 人工授精によるチンパンジー2子の出産はすでに報告したが, 今年度においても「チンパンジーの聴覚と音声の発達」の研究のため人工授精によるチンパンジーの新生児(♀, 名前はパン)を供給した。

当施設の教官が主体となった共同利用研究会「霊長類研究への実験動物学的アプローチ」が11月末に開催された。今年度の副題は「霊長類と疾病」であった。所外からの25名を含む約40名の参加を見, 霊長類と疾患との関わりについて第一線で仕事をしている人達により活発な討論がなされた。

人事では昭和58年6月1日付で助教授昇任により空席となった助手を公募により求めたところ, 東京大学農学系研究科の大学院生であった鈴木樹理に決定した。また昭和45年以来飼育はもとより施設の機械, 設備の整備に尽力のあった加藤良夫技官

が11月1日付で名古屋工業大学に転出した。また昭和59年4月1日から2年間, 竹中 修(生化学部門)が施設長を兼任することとなった。

#### 研究概要

- 1) 雄ニホンザル性機能の年令・季節変化の研究

松林清明

各性ホルモン濃度や下垂体組織の変化を調べると共に, 精液性状, 生殖腺組織像の発達と季節変動をみている。

- 2) 飼育下のサル類の疾患に関する調査研究

松林清明

全国の動物園, 日本モンキーセンター, 霊長類研究所の診療簿, 剖検録等の記録から, 種, 年令, 性, 飼育形態による疾患傾向の有無を調べている。

- 3) マカク類の成長に伴う眼内視所見の推移

後藤俊二

単色光撮影法を応用して眼底各層の加齢による形態変化および屈折率の変化等について調べている。

- 4) ニホンザル四肢奇形の原因探究

後藤俊二

催奇形因子を類推する手がかりを得ることを目的として奇形固体および奇形出産個体の血液性状について検討を行った。

- 5) サル類の成長の形態学的および生理学的研究

鈴木樹理

各種サル類の成長を, 初期成長および性成熟過程に重点をおいて, 生体計測ならびに各種ホルモンなどの測定により解析する。現在カニクイザルについて研究を行っている。

- 6) サル類疾病の病理学的研究

鈴木樹理

本研究所で死亡したサルについて病理学的検索(特に組織学的検索)を行い, その原因とサル類における各種疾病の病理形態の解明を進めている。

#### 論文

- 1) Matsubayashi, K. and T. Enomoto (1983) ; Longitudinal studies on annual changes in plasma testosterone, body weight and spermatogenesis of adult Japanese monkey (*Macaca fuscata*) under the labora-

1) 教務職員

tory condition. Primates. 24(4):521-529.

# 学会発表

## 1) 松林清明, 望月公子

ニホンザル雄性生殖器形態の季節的变化。第96回日本獣医学会。(1983)。

## 2) 松林清明, 熊崎清則, 釜中慶朗

チンパンジーの人工授精例8例。第28回プリ

マーテス研究会。(1984)。

## 3) 熊崎清則, 松沢哲郎, 松林清明

ビデオセンサーを用いたチンパンジー分娩予知システム。第28回プリマーテス研究会。(1984)。

## 4) 松林伸子, 後藤俊二, 釜中慶朗

サル類の疾病時に検出された細菌相。第28回プリマーテス研究会。(1984)。

1983 年度 (昭58) サル 動態 表

区 分 種 名	入 荷 出			管 理	実 験	外 傷	管 理	そ の 他 の 死 因				
	校 費	寄 附	代 替					呼 吸 器 系	消 化 器 系	循 環 器 系	そ の 他	不 明
コ モ ン ツ バ イ				7		1						2
ス ロ ー ロ リ ス											1	1
オ オ ガ ラ ゴ									1			
コモンマーモセット	6		2						(2)			1
シルバーマーモセット												1
ワタボウシタマリン				1					1			1
ヨ ザ ル				1				1				
リ ス ザ ル	4					1			1			
フサオマキザル				1								
ニ ホ ン ザ ル		48	2	42		38	2	2	2	1	2	1
ヤクニホンザル				3		1			1		1	
ア カ ゲ ザ ル			1	32		20	2	2	3	1	1	1
タ イ ワ ン ザ ル				2			1					
カ ニ ク イ ザ ル		6		6	20	9	1	1	1			
ベ ニ ガ オ ザ ル				1								
ボンネットザル				3								
ア ッ サ ム ザ ル						1					1	
ニホンザル×アカゲザル						1						
カニクイザル×ブタオザル		1										
マ ン ト ヒ ヒ	10											
ゲ ラ ダ ヒ ヒ									1			
チ ン パ ン ジ ー				1								
ニホンザル×ヤクザル											1	1
計	20	55	5	100	20	71	7	5	7	8(2)	1	7
合 計		80		100	20	71	7	5		31(2)		8

注) ( )印 検疫中死亡頭数: 借用中のサルは含めない。

総増加数-総減少数=差引増加頭数

$$180 - 134 = 46$$

1983 年度末飼育頭数

種 名	頭 数
コ モ ン ツ パ イ	13
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	6
オ オ ガ ラ ゴ	4
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト	5
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	11
ヨ ザ ル	8
リ ス ザ ル	4
ノ ド シ ロ オ マ キ ザ ル	1
フ サ オ マ キ ザ ル	4
チ ュ ウ ベ イ ク モ ザ ル	1
ミ ド リ ザ ル	3
パ タ ス ザ ル	2
ニ ホ ン ザ ル	361
ヤ ク ニ ホ ン ザ ル	23
ア カ ゲ ザ ル	170
タ イ ワ ン ザ ル	16
ブ タ オ ザ ル	5
ベ ニ ガ オ ザ ル	7
ボ ン ネ ッ ト ザ ル	14
カ ニ ク イ ザ ル	23
ア ッ サ ム ザ ル	3
M f f × M f y	1
M f f × M m	4
M i × M n	1
E p × C a	2
マ ン ト ヒ ヒ	12
シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ア シ ル テ ナ ガ ザ ル	1
チ ン パ ン ジ ー	9
計	716

大 学 院 学 生

昭和58年度における京都大学理学研究科動物学専攻霊長類学分科の学生とその指導教官・研究テーマは次のとおりである。

氏名	学年	指導教官	研究テーマ
星野次郎	D 4	河合雅雄	マンドリルの生態学的研究
浜田 稯	D 4	岩本光雄	マカクザルの胎児期

氏名	学年	指導教官	研究テーマ
鹿野一厚	D 3	河合雅雄	から若年期の成長 (年度途中退学) ヤギの社会生態を基 盤としたヤギ遊牧民 の生態人類学的研究
宮藤浩子	D 3	河合雅雄	マンドリルの社会生 態学的研究
ジャン・ バルセロ	D 3	河合雅雄	熱帯多雨林の樹上性 霊長類の生態社会学 的研究
名取真人	D 2	江原昭善	リスザルの臼歯の個 体変異について
三谷雅純	D 1	河合雅雄	熱帯多雨林の樹上性 霊長類の音声伝達に 関する研究
広谷 彰	D 1	河合雅雄	イノシシを主とした 狩猟生活の生態人類 学的研究
吉久保真一	M 2	室伏靖子	霊長類の種の認知に 関する実験的研究
大井 徹	M 2	川村俊蔵	ニホンザルの採食行 動の社会生態学的研 究
丹治雅夫	M 2	高橋健治	霊長類の組織プロテ アーゼの性状と生理 的分割
沢口俊之	M 2	久保田競	前頭前野の機能的細 胞構築
早坂謙二	M 1	野沢 謙	ニホンザルの父権に 関する研究
村山裕一	M 1	高橋健治	霊長類のリンパ球抗 原について
Solomon Yirga	M 1	江原昭善	霊長類各群における 下肢の筋・骨格系とロ コモーションの関連性

研 修 員

氏名	指導教官	研 修 題 目	研修期間
Pamela J. Asquith	杉山幸丸	欧米と日本の霊 長類学における 擬人主義の比較	57.5.1 ～ 58.4.30